



AA日本ニューズレター

〒100-91
東京都中央郵便局
私書箱 916



AA 日本ゼネラル・サービス・オフィス
〒171 東京都豊島区池袋 2-23-3 橋ビル 9F

TEL 03-3590-5377
FAX 03-3590-5419



No.52

AA日本GSM

開催と参加への案内



例年東京の門前仲町で開催されるゼネラル・サービス・ミーティングも回を重ね第7回の開催時期になりました。

今年は3月に日本AA20周年記念集会在開催され、落ち着いた中にも何かを彷彿とさせる熱気を感じる3日間を過ごしましたが、その第2日目に全国代議員集会在開催され、全国のグループの半数以上から代議員が出席して、オフィス運営委員会より審議依頼のあった常任理事会設置についての意見が分かち合われました。そこで、長年の懸案であったAA日本常任理事会設置の承諾が大多数の代議員の賛成を得て可決されたわけです。

この決定を踏まえてJ.S.O.運営委員会では各グループに常任理事会設置案を送付しましたので、その案を骨子に全国各地域で話し合いを持っていただき、その蒸留的な意見を地域評議員が持ち寄って、より理想に近い常任理事会発足に向けた分かち合いをすることが、今回のGSMの最大のテーマです。

今年は折よくアメリカ・サンディエゴでAA60周年が開催され、日本からもメンバーが多数参加します。世界のメンバーとの出会いを体験して得た何かを今回のGSMに反映して頂けるものと期待して、今回のGSM開催の時期を1ヶ月程ずらし計画致しました。

先に行われた20周年記念集会的代議員集会上で、明日のAAの発展への熱い思いを込めて到達した重要な決議を、よりよい形でできるだけ早い時期に発足させるため、事務局一同で下記のようなプログラムを作成いたしました。

《21日(金)》

10:00 受付

11:30 ランチ・ミーティング

各自の自己紹介

13:00 事務連絡

13:30 1994年度の決算報告、承認
1995年度の予算報告、承認

14:15 1994年度の事業計画の反省

1995年度の事業計画、報告、承認

15:30 20周年の棚卸し

16:30 常任理事会設置案の説明

19:00 常任理事会設置案審議

《22日(土)》

19:00 常任理事会設置案審議 分科会方式

13:00 常任理事会設置案審議 全体会議

19:00 評議員担当による分科会

《23日(日)》

9:00 WSM 評議員選挙

9:50 AOSM 報告

10:30 WSM 報告

以上3日間、夜10時までのスケジュールで分かち合いが行われます。

例年と同じように非常に過密なスケジュールで誠に申し訳ないと思いますが、年に一度のミーティングですので、ご理解頂きたいと思います。

全国のメンバーの方々一人でも多く参加して頂き、真の声が反映され、充実したGSMにすべく、下記の要領でメンバーの参加をお待ちしております。

記

日時 1995年7月21日10:00から7月23日正午まで

会場 東京都江東区深川1-6-3「ホテルB&G」

交通 東京駅より車で10分

地下鉄東西線門前仲町西口3番出口より
徒歩7分

食事 ランチ・ミーティング ¥4,000 - .60人まで

朝食 ¥1,000. -

昼食 ¥1,500. -

夕食 ￥2,000.-

なお、ホテル内にレストランがあり、近くにコンビニもありますので、そちらを利用いただいても結構です。

宿泊 会場である「ホテルB & G」の宿泊キャンセルはかなり料金がかかり、毎年無駄な出費を強いられているため、今年は事務局として余分に部屋を確保しておりません。宿泊希望の方は、お手数ですがご自分で予約していただけますよう、お願い申し上げます。

ホテルB&G TEL 03-3630-2711

ホテルBMC (会場から徒歩2分)

TEL 03-3643-2131

以上が開催の概略です、食事の申し込みをなさる方は、各COに事前にお送りしてあります申込用紙を利用して頂き、6月30日までに現金書留にてGSM事務局まで送金願います。

なお不明な点がございましたら事務局(AAJSO小宮山)までお問い合わせいただけますようお願い致します。

GSM事務局小宮山

変動する世界で、AAの仲間たちは今...

第13回ワールドサービスミーティングに続いて第1回アジアオセアニアサービスミーティングが開催されましたが、その議事項目の内容を見ると、まさに世界中のどこのAAも同じような問題を抱え、同じようにその解決に向けて奮闘していることが分かります。ぜひここでその一部を紹介させていただきたいと思えます。全体についてはそれぞれの報告書を是非ご一読いただけたらと願っています。

【伝統6 従属関係を持たないとは】

スウェーデン、マリー

伝統6について話をするのが私の課題で、いったい何をどう話したらよいものか考えてみたが、「AAグループはいかなる関係ある施設にも、外部の企業に対しても、保証や融資やAAの名前を貸すことをしてはならない。金銭や所有権や名声の問題が、われわれを大事な目的からそれさせる恐れがあるからである」という伝統6について、我が国スウェーデンで経験したこと、あるいはこれから経験するだろうと思われることを基盤に話を進めてみたいと思う。

その依頼を受けた私はさっそく1992年に行われた第12回WSMの報告書を読み始めた。その報告書の中で、例えば、イタリアでは施設との問題のため、そして従属関係を持たないという伝統6に関連して生じた深刻な問題のために、イタリアAAが分裂したことを知った。そのような問題は、スウェーデンが治療施設との間で経験したものとほとんど同じだった一実はまだ完全に解決したわけではないのだが。

さらに報告書を読み進めるうちに、世界中の多くの国々で、アルコールリズムの分野の専門家たちとの関係が必ずしもスムーズにいつているわけではないことを知った。しかし同時に、AA外部の専門分野や団体と協力することがAAにとってどれほど重要かも分かった。ビルWもこの点を非常に重要視しており、AAメ



ンバーに対して、常に協力関係を深める努力をするよう奨励している。たとえば「AS BILLSEES ITのなかでビルは、「私たちは、医療、宗教、企業、政府、裁判所、刑務所、精神病院、その他、あらゆるアルコールリズムの分野とのつながりをもっと深めることは非常に大事だ。また、編集者、ライター、そしてテレビやラジオ局の人達の善意がなくてはAAは存続できない。これらの分野の人達と、もっと幅広い交流を持つ必要がある」と言っている。これこそまさに、従属関係を持たずに協力することだと思う。

さてここで、スウェーデンのAAの歴史に触れてみたい。1940年代から50年代の初頭にかけて、アメリカから我が国を訪れてきた人がAAのメッセージを広げた。その時点でたくさんのアルコールリズムが影響を受けたが、AA本来のグループが生まれたのはそれからだいぶ経った1956年のことだった。それは、AAのメッセージが初めて我が国に運ばれたとき、この12のステップを変更しようという動きがあったからだ。彼らは「神」を取り除き、このプログラムの霊的な部分を取り除いた。その結果、12のステップは

7つのポイントとして書き直された。12の伝統は完全に除外された。AAという名前も「リンクス」に変えた。1950年にスウェーデンを訪問したビルWは、リンクスのグループを訪ねた。リンクスもAAグループとしてニューヨークのGSOに登録されていたからだ。現在も「リンクス」は活動を続けており、AAと協力関係にあるが、従属関係にはない。

1980年の時点では、スウェーデン全国を数えても本来のAAグループは20ほどしかなく、しかもストックホルムやスウェーデン第2、第3の規模の大都市に限られていた。地方や小さな町にAAは存在しなかった。現在は全国的に広まっており、グループ数も400にのぼっている。

1984年、12のステップを利用した治療センター第1号が出現し、それから数年の間にこの種の施設が数多く生まれた。私には忘れられない思い出がある。1985年のことだが、それは私がAAで飲まなくなってちょうど1年半目のときだった。ストックホルムにあるホームグループから仲間が電話をかけてきて、大至急ミーティングに来てくれと言われた。何とこのミーティングには治療センターから20人も参加していたのに、AAメンバーの出席者はその仲間たったひとりだったのだ。こういうことはあちこちのミーティング会場で少なからず起こっている。

近年、AAである程度のソプラエティを得ると、治療センターで職員となる人達が増えてきた。自分で施設を始める人もいる。しかしこれも何の問題もなくスムーズにいったわけではなかった。AA内外の人達が、「AAと提携している治療センター」について物言いを始めた。グループのビジネスやサービス会議の議事項目には必ず「このような状況にどう対応すべきか」というテーマが組み込まれる状況が長期間にわたって続いた。

私たちはこれらの施設に手紙を書き、AAの伝統を伝えた。グループでもオフィスでも意見の衝突があり、何度も何度も内部分裂した。けれども私たちには伝統があり、概念があった。そしてグループの良心が働いた。疑惑と論争の時期を乗り越えた今、落ち着きを持った本来のAAグループが続いてもう数年になる。

80年代のなかばに初めて施設が生まれたときには施設の患者の大部分がアルコールクだった。その後数年の間に状況も変わり、安定剤、眠剤、食べ物、さまざまな種類の薬物、さらには嗜癖行動の問題を持った人達が増え、これらの人達もAAミーティングに姿を現すようになった。そのために私たちに提起された問題は、やめたいと思ってAAに来たアルコール以外の薬物の人を、私たちは追い出してよいのか、というものだった。

その答えに対して私は、もしあなたがアルコールイズムという病気でも、AAミーティングに来ないのなら、AAメンバーにはなれない、ということと同じだと考えている。AAの伝統3は「AAのメンバーになるために要求される唯一のことは、酒をやめたいという願望だけである」といっている。これはAAの謙虚さだと思う。AAは自分たちの限度を認め、自分たちができること、自分たちにできないこと、どういう人がAAメンバーで、どういう人がメンバーではないのかを認識しているからだ。

12のステップのプログラムはすべての人が自由に使うことができる。その結果スウェーデンで、そして世界各国で、それはそれはたくさんの12ステップグループが誕生した。スウェーデンでも全国的に、NA、OA、EAといった12ステップ・グループが活動をしている。私たちはこれらのグループと協力するが、従属関係にはない。同じことはアラノンやアラティーンについても言える。「この変動する世界で伝統を守るには」というテーマは非常に大事なことで私は思う。私たちは変動する世界に住んでいる。だからなおのこと、AAの12の伝統を忘れてならない。世界が変わっても、アルコールイズムという病気は変わらないのだから。



【カンボジア人のAAグループの手助けをして】

アン、アメリカ/ロードアイランド

5年ほど前、ここロードアイランド州でカンボジア人によるAAグループを始める手伝いをしたが、そのときには実にいるいるな壁にぶつかった。例えば：カンボジア人の回復者がいない、言葉の壁、クメール語のAA出版物がない（現在は3種類のパンフがある）、文盲が多く、カンボジア人が使っているクメール語も読めない人が多い、アメリカ人のAAグループという主流に入って行こうという気持ちがない、あるいは入るのが不可能、AAと治療の違いについて誤解がある。

5年を経過した今もグループは存続しているが、広がりもなければ、自立的な動きもない。定期的にミーティングに出ているメンバーは5、6名おり、ソプラエティは続けている。

そこでお伺いしたいのは：アメリカ在住の主だった東南アジアの人達の多くは、文化的背景の違い、仏教の影響、面目、といった点から、AAや12ステップのプログラムは東南アジア人には向かないという意見を持っていることだ。わたしはその人達の誤りを指摘できたと思う。どのような国の人達であれ、どのような文化であれ、AAは効果をもたらすものと強く信じているからだ。でも周囲に既成事実がない。

AAがアジア人にも効果があるのだという事実や、アジアのAAメンバーの個人の回復の経験をお知らせいただければと願っている。

【ホンコンの中国人アルコールクとAAのプログラム】

ピーター、ホンコン中国人メンバー

ホンコンのAAは、まず英語ミーティングから始まった。1988年、中国語のAAを始めようと、ホンコンの人口密集地域のホームレスの宿泊所と避難民収容所センターで2ヶ国語のミーティングが始まった。ここ数年の私たちの活動は、口頭でメッセージを伝えることだ。

AAで回復中の中国人のアルコールクたちも、アルコールリズムとは治癒できない病気だが、回復は可能であること。それが実現するかどうかは、AAの12のステップを自分自身がどれだけ実践するかにかかっており、その実践は一生を通じてかわる卒業のない日常的なプロセスだということを理解している。

口頭で伝える説明には限界がある。終始一貫したメッセージというものは文章で示される必要がある。AAのメッセージを、概念的に正確で正しい中国語に翻訳することがどうしても必要である。

AAのプログラムの助けを受けて11年間のソブラ

エティを続けている中国人のメンバーが、アルコールクス・アノニマスへの感謝の気持ちの表明として「ビッグブック」を中国語に翻訳した。このビッグブック中国語版は1994年のはじめに発行された。

文化的な背景や宗教観の違いといったものは、ホンコンでAAを始める際には、かなりの問題になっていたが、だからといってAAの12のステップはホンコンの中国人には不向きだと結論づけるべきではない。ホンコンの中国人たちにとって12のステップのプログラムの考え方は初めて触れたもの、という、ただそれだけのことなのだ。

ホンコンの中国人AAの成長のために必要なのは、もっと多くの人(中国人、外国人を問わず)にメッセージやミーティングに参加してほしい。新しくつながった中国人メンバーにしても、毎回小人数で同じ顔触れでは、興味が失われる。外国人のメンバーにも大いに参加してもらえれば、中国人も大きなフェロウシップの一部に属していると感じられるはずだ。中国語のAA出版物がもっと必要。「12のステップと12の伝統」の中国語訳の発行を切に望んでいる。病院とのつながりをもっと深めること。特に、中国人の患者がたくさんいる病院で解毒後、もしくは解毒期間中にこのプログラムにつながれるようにできればと願っている。

ホンコンの将来については、1997年に統治権が移行されるため、特に中国語のAAグループとしては心配が多い。しかしそれを気に病むことよりも、私たちは計り知れないほど価値のあるものを手にできたのだという感謝の気持ちをもって、次の人もソブラエティが得られるよう手渡していくことが大切なことを学んだはずだ。そして中国語、英語にかかわりなく、ホンコンの私たちAAメンバーは、偉大な力が不可能なことも実現してくれることを信じればよいのだ。

新刊案内 AA日本20年史 いくたびもの出会いを重ねて AA日本20年の歩み

現在の日本のAAの歩みをたどった“20年史”がこのたび完成しました。

本誌では、日本語のステップミーティングが初めて東京蒲田で開催された1975年3月をさらにさかのぼり、在日外国人によって開かれていたAAミーティングの記録、そして医療関係者や高知アルコール問題研究所による我が国へのAA紹介・導入の活動やアメリカのAAとのコンタクトの状況の記録等にも触れています。

¥2,000.- (送料¥300)



日本全国の各地域におけるAAの歩みは各地域の担当者が詳細にまとめました。AAグループ活動およびAA日本の全体活動に関連した年表は、グループの誕生、イベント、メッセージ、サービス、広報活動、そして出版物発行の流れをカバーしています。

さらには日ごろ関係者のかたがたやメンバーの皆様から寄せられるAAについての素朴な疑問についても、AAの出版物を参照しながら取り上げてみました。